三好議員（自民議連）

平成 28 年２月 25 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）ふるさと教育の推進について

真のグローバル人材を養成するためには，正しい国家観，歴史観を持つことに加え，家族や生まれ育った故郷を愛する心をしっかりと育むことが重要であり，現在，県教育委員会では，歴史教材「郷土ひろしまの歴史」などを作成し，郷土の偉人の功績を学び，郷土愛を育む取組を積極的に進めており，大いに評価している。

私は，その地域で活動されている郷土史研究家などを活用した，副教材の作成，出前講座や史跡巡りの開催など，真に地域に根ざしたふるさと教育の一層の充実を図って行くべきと考える。

そこで，地域に根ざしたふるさと教育を進めていく観点から，各学校において，郷土史研究サークルなど，民間ボランティアとの一層の連携強化を図っていく必要があると考えるが，こうした仕組みづくりに向け，県教育委員会としてどのように取り組んでいくのか，教育長の所見を伺う。

（答）

郷土の伝統と文化を大切にし，郷土を愛する心を育てることは，日本人としてのアイデンティティを確立する上で，重要であると考えております。

そのため，学校におきましては，地域に受け継がれてきた伝統や文化，地域の歴史などについて調べる学習を行っており，その際，幅広く情報を集め，学習内容について理解を一層深めるよう，地域の郷土史研究会やボランティアの協力を得るなど，地域の実状に応じた取組を行っているところでございます。

例えば，福山市では，市全域の小中学校におきまして，「ふるさとへの愛着と誇りの育成」を目的として，「大好き！福山～ふるさと学習～」に取り組んでおり，地域の郷土史研究家や地域の人々の協力を得て，ガイドブックの作成や特産物の商品化など，郷土を愛する心を育む学習の充実を図っているところでございます。

また，三原市の小学校では，観光協会，ボランティアなど様々な方から三原の歴史や地域の人々の願いを聞き取り，市の活性化のために自分たちにできることを考え，「三原神明市こどもだるま行列」を地域の方々と共に作り上

げる取組が行われているところでございます。

　教育委員会といたしましては，このような取組を広く県内に紹介し，各学校における郷土の伝統や文化の学習の一層の充実を図ってまいります。